

第1回安全研究審議会における主なご意見と回答

(論点の整理)

平成19年3月6日

独立行政法人 日本原子力研究開発機構

安全研究審議会事務局

議題等	質問・ご意見	
安全研究審議会の位置付けと役割について	Q 1	中立性・透明性を確保する、の「中立性」はどのような意味か？
評価の実施要領案について	Q 2	安全研究審議会と安全研究委員会との違いは何か？ 安全研究審議会において技術的な評価を行うのは困難。 安全研究委員会での自己評価をベースに、安全研究審議会では別の視点で評価する方が良い。
全体としてのご意見	Q 3	安全研究センターの運営方針、JAEA 全体としての安全研究の位置付けや安全研究実施上の課題について伺いたい。
	Q 4	その他の主なご意見（評価の視点等について）

Q 1 中立性・透明性を確保する、の「中立性」はどのような意味か？

【回答】

JAEA の中には、再処理施設のように具体的に国の安全規制を受けるものがある。「中立性を確保」とは、JAEA 内で規制支援を目的とする研究活動の組織的な独立性を高める等により、規制を受ける活動との適切な分離を図ることを意味する。

【参考】

①「中立性・透明性」の要請

原子力二法人統合準備会議の「原子力二法人の統合に関する報告（平成 15 年 9 月 19 日）」に、安全研究の組織・運営の在り方として「規制行政庁、原子力安全委員会等の要請に基づいて実施される安全研究の成果を踏まえた技術支援等は、例えば、新法人内部の独立したセンター的な組織を活動の中核とするなど、新法人の原子力推進部門とは別の組織形態とし、業務の「透明性」、「中立性」の確保の要請に対して特段の配慮を行いつつ実施することが必要である」と示された。また、原子力安全委員会の「原子力の重点安全研究計画(平成 16 年 7 月 29 日原子力安全委員会決定)」及び原子力安全・保安院の「原子力安全・保安院の原子力安全研究ニーズについて(平成 17 年 12 月 22 日)」においても、同様の要請がある。

②「中立性・透明性」の確保方法

【組織形態】安全研究の成果を踏まえた規制支援は、JAEA 内部の独立したセンター的な組織（安全研究センター）を活動の中核とし、JAEA の原子力推進部門とは別の組織形態とする。

【成果の公開】安全研究の成果を積極的に公開するとともに、成果の規制への反映方法も自ら提示する。

【外部評価】外部の専門家・有識者で構成される「安全研究審議会」を設け、JAEA で実施する重点安全研究の実施計画、成果及び規制への反映状況の評価を受ける。

Q2 安全研究審議会と安全研究委員会との違いは何か？

安全研究審議会において技術的な評価を行うのは困難。

安全研究委員会での自己評価をベースに、安全研究審議会では別の視点で評価する方が良い。

**【回答】**

安全研究委員会はセンター長の諮問機関であり、主に技術的な議論が行われる。安全研究委員会での討議内容を安全研究審議会の評価の参考として提示させていただく。安全研究審議会での評価要領は、審議会でご議論いただくこととしており、今回のご議論を踏まえて、評価要領の修正案を提示させていただく。

(本件は、第2回安全研究審議会においてご議論いただく予定)

**【参考】**

① 安全研究審議会の役割

安全研究審議会は、JAEA が実施する重点安全研究の計画・成果のみならず、実施体制や実施プロセス、成果利用等について中立性の観点で評価いただく“お目付役”であるとともに、「社会への情報発信の窓口」として社会・経済のニーズを適切に評価に反映させることもお願いしたい。

Q 3 安全研究センターの運営方針、JAEA 全体としての安全研究の位置付けや安全研究実施上の課題について伺いたい。

【回答】

JAEA 設立に際し、国の安全規制を支援する機能を法人全体の資源を活用して取り組むよう要請された。同時に、規制支援の中立性・透明性の確保に十分配慮することも要請され、安全研究センターという組織ができた。規制支援が明確に位置付けられた一方で、将来の長期的観点での基礎研究の継続や施設・人材の基盤維持が重要と認識している。外部資金を活用した事業が殆どを占める状況の中で、将来を見据えた課題を見付けて、人材育成にもきっちり対応していきたい。

【参考】

① 安全研究センターの組織設計

安全研究センターは理事長直結の独立した部門の 1 つである。原子力安全委員会の「原子力の重点安全研究計画」等に沿って JAEA が実施する安全研究（「重点安全研究」という）の成果は、安全研究センターが統括する。即ち、原子力の基礎・基盤研究、核燃料サイクルの確立を目指す研究開発等の成果のうち安全規制に貢献できるものについて、安全研究センターがとりまとめる。また、必要に応じ、開発研究拠点に安全研究センターのユニットを設置する（例えば、敦賀）等、中立性を確保しつつ重点安全研究の効果的・効率的実施を図っている。

② 安全研究センターの運営

安全研究センターが JAEA 全体で実施・計画中の重点安全研究をとりまとめ、原子力安全委員会及び原子力安全・保安院との緊密な連携を図っている。具体的には、規制側の安全研究ニーズの把握、新たな安全研究課題の提案、安全研究の進捗状況の報告、安全審査等の判断根拠となる知見・データの提供、将来の原子力安全規制の検討のための情報提供を行っている。また、原子力安全委員会及び原子力安全・保安院、独立行政法人原子力安全基盤機構（JNES）からの受託研究については、安全研究センターが受託し、他の研究開発部門や研究拠点と有機的に連携して研究を実施し、安全研究センターの安全研究委員会（及び、個別の課題に係る専門部会）において技術的な討議・評価を行う。安全研究委員会での討議・評価内容は安全研究審議会における評価の参考として提供する。

Q4 その他の主なご意見（評価の視点等について）

- ・ 長期的な観点から安全規制の実効性を高めるような技術開発への取組みも重要。
- ・ 安全研究では、技術的な基盤を形成することが大きな成果。
- ・ JAEA は世界有数の原子力開発研究を行っており、安全研究としても世界をリードする成果を期待したい。
- ・ 安全研究は、統合効果を期待できる領域。
- ・ 新たな事業の進展のためには規制ができていく必要がある。今後は、サイクル、廃棄物・廃止措置が重要。その意味で、適切な研究がなされている。
- ・ 合理的な規制のための提言やデータの提供も期待している。
- ・ リスク情報の規制への活用法の提言、規制への人的貢献も期待。
- ・ 学協会基準の作成に JAEA の研究成果の活用を期待。
- ・ 成果が上がったものばかり報告されたが、うまくいかなかった事例の方が役に立つ場合がある。
- ・ ハードの研究が殆ど。安全を議論する際に人的因子は避けて通れない。
- ・ 重点安全研究計画の議論の中で JAEA は原子力安全委員会の支援機関と位置付けられており、将来の規制のあり方も含めて有効な研究提案をすることが期待されている。そういった視点で各研究の位置付けを示して欲しい。
- ・ 成果の公表について、論文だけでなく、判り易く使い易い形で公開して欲しい。
- ・ 安全研究センターが JAEA の中でどうあるべきかという議論もある。
- ・ 安全研究センターでなくとも JAEA 全体の機能として、炉規法関連の提言や専門家の育成を視野に入れておいた方が良い。